



特集 琉球舞踊と組踊 春秋座特別公演 — 2P-5P
ミニ特集 ダンス作品
『星の王子さま—サン=テグジュペリからの手紙』— 6P-7P
ホワイエ 倉本聰(脚本家)、市川笑也(歌舞伎俳優) — 8P-9P
9~12月公演スケジュール — 10P-11P

【開学30周年記念事業】
京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム
市川猿之助・藤間勘十郎
春秋座 花形舞踊公演 — T・2P-T・5P



琉球舞踊と組踊 春秋座特別公演

2020年11月29日(日) 14:00

会場：春秋座

出演：宮城能鳳（立方／人間国宝）、
西江喜春（歌・三線／人間国宝）、ほか

司会・解説：嘉数道彦（国立劇場おきなわ芸術監督）

共催：公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会



●公演情報の詳細はスケジュール一覧（P.10）をご覧ください。

2012年より隔年開催している「琉球舞踊と組踊」公演。琉球王朝時代に中国からの使者・冊封使をもてなすために創作された芸能「組踊」と、琉球の宮廷から明治の市井でうまれた作品まで多様な「琉球舞踊」をご覧ください。今回は、組踊の祖・玉城朝薫^{たまぎすくも}朝薫^{あきん}として、今日も上演される朝薫五番*のうち春秋座では最後の紹介となる『二童敵討』を上演します。無実の罪を着せられ殺された父をもつ兄弟による勇ましくも美しい仇討ち劇をお楽しみください。舞踊は舞踊喜歌劇『戻り駕籠』をはじめ多彩なプログラムをお届けします。

*朝薫五番 = 『二童敵討』『執心鐘入』『銘苅子』『孝行の巻』『女物狂』

写真提供：国立劇場おきなわ

組踊

『二童敵討』にどうてきうち

組踊の創始者・玉城朝薫の作品のひとつで、別名「護佐丸敵討」とも呼ばれています。1719年、中国からの冊封使をもてなす宴において、「執心鐘入」とともに組踊として初めて上演された記念すべき演目です。あまおへ（阿麻和利）の計略により父（護佐丸）を討たれた鶴松と亀千代の兄弟が踊り子となり、父の敵を討ち果たす物語です。

扉写真：上（左、右）

舞踊喜歌劇

『戻り駕籠』もどりかご

駕籠に乗せた女性が絶世の美女だと思ひ込み、どうにかして自分のものになろうと考える駕籠かきの二人。とうとう腕ずくとばかりに喧嘩になりますが…。歌舞伎舞踊「戻籠」の一部に、沖縄の歌劇と舞踊の要素を織り交ぜて、初代・玉城盛義師が創作した作品といわれています。

扉写真：下（左）

古典舞踊

『本花風』むとうはなふう

旅立つ男性を見送る、首里士族の婦人が主人公の舞踊です。前段の「本花風節」では、惜別しながらも航海安全・再会の願いが込められ、後段の「下出し述懐節」では、船出を見送った帰り道に「雨も降らないのに（涙で）袖が濡れてしまった」と女性の悲しさと侘しさが表現されています。なお、本公演で踊る「本花風」は宮城能鳳による振付です。

扉写真：下（右）

琉球芸能 — 音楽劇の伝統 —

茂木 仁史（国立劇場おきなわ調査養成課課長）

「琉球芸能」とは、「琉球国に由来する伝統芸能」のこと。古来、琉球は芸能の盛んな島であった。神人（カミンチュ）は、神への祈りの言葉を歌や所作にのせ、人々も祭りに芸能を捧げた。それは古代日本とも通じるだろう。

琉球国は、1429年より1879（明治12）年まで450年間存続した。中国とは「冊封」（中国皇帝の文書による国王の任命）の関係を結び、王の代替わりに行われる冊封の儀は、最も重要な国家行事であった。「冊封使」は、帆船で春と秋の季節風により往還したため、半年ほど琉球に滞在した。最初に先王の霊位を祀る「諭祭」を、次いで新王を封ずる「冊封」を行う。その後、五回の正式な宴が催されて、冊封使は琉球の時間と文化をゆったりと消費した。

宴の「お取り持ち」（ウトウイムチ）として、踊りも音楽も士族が自ら行い、すべて男性が演じた。自らの娯楽というより、一義的には儀礼や外交上の接待のため行ったもので、昇進にも直結していた。初期の宮廷芸

能は、神人や祭りの芸能に倣ったであろう。但し、神への言葉は、中国皇帝と冊封使に対する感謝や新国王への賛辞に変えられ、主に王族や高官の子弟ら「若衆」が演じた。神事由来の祝祭性にあふれた、舞台を用いない庭や広場の芸能であったろう。

1609年、薩摩藩の侵攻により徳川の支配下に組み込まれる。中国との関係は継続され、立場が難しくなった。やがて、中国でも日本でもない、琉球独自の宮廷芸能が希求される。こうした気運が生まれたことは、日本に属したことを、中国に悟られないためと説明されてきたが、日中に両属する琉球の、独立国としての尊厳や矜持の為せる業ではなかったか。

1719年に踊奉行を務めた玉城朝薫は、首里城の庭に初めて「舞台」を設えた。これにより、庭の芸能の舞台芸能化、「様式化」が促された。さらに、宴ごとの式次第を整え、各宴の趣向を明確にし、それが後々も踏襲された。これらは宮廷を挙げて行われた改革で、「官製芸能」とい

うべき特殊性が深められた。

朝薫の最大の功績は、「組踊」という新しい演劇の創造であった。琉球の「故事」を素材とし、琉球の音楽・音階で構築した「音楽劇」である。中国の三弦が琉球で「三線」に生まれ変わり、琉球を代表する楽器となっていた。役者のセリフと演技が物語を運び、情景や登場人物の感情は三線による「歌」が深く描写する。三線音楽は舞踊曲としても磨かれて、相乗的に組踊を芸術の極みに高めた。ついには「組踊は聴くもの」とされるほど、音楽性が際立ったの



琉球歌劇の代表的名作『泊阿嘉』（金城真次）

である。宮廷の音楽と舞踊は、今日では「古典」と呼ばれている。

明治12年の廃藩置県で多くの宮廷文化が失われたが、舞踊と組踊は命脈を保った。ただし、首里城から市井の劇場に場を移し、観客席は大衆のものとなり、上演の目的も「公務」から「興行」へ変った。それまで見られなかった宮廷芸能は、それだけで庶民を惹きつけた。だが、それも次第に飽きられて、大衆の嗜好に合うよう創意・工夫が始まる。宮

廷には無いやり方であった。

初期の芝居は「ワンドタリー調」という。「私は～」という「名乗り」を方言にしたもので、組踊様式の口語化といえる。馴染みのある言葉に換えながらも、名乗りの様式を残した過渡期の形式であった。舞踊は、「雑踊」という庶民の風俗を写した踊りが考案された。古典舞踊の「女踊」が古典音楽を用いて高価な紅型衣裳で踊られるのに対し、雑踊を代表する「姉小舞（アングァーモー

イ）」は、絣や芭蕉布など庶民の着物で、若い女の子を描いて喝采を浴びた。その音楽は、軽快な民謡であった。演劇も、「狂言（チョーギン）」といい、本土の狂言の翻案や、創作軽喜劇など、新時代に合ったポップな作品が生まれた。明治後期には、本土の歌舞伎や壮士劇、新派、新劇などの刺激も受け、沖縄でも様々な試みが行われた。

この頃、特筆すべきは「琉球歌劇」である。セリフを節に乗せて歌い、

仇討ちの「めでたさ」

田口章子（京都芸術大学教授、歌舞伎研究）

『寿曾我対面』

「はて、珍しき対面じゃなあ」
苦節18年の末、曾我十郎祐成・五郎時宗の兄弟が親の敵・工藤祐経とはじめて顔を合わせる場面のせりふだ。『寿曾我対面』は曾我兄弟がめぐす敵に対面するというシンプルなストーリーだが、歌舞伎のあらゆる役柄が勢ぞろいする豪華な一幕物である。

場面は工藤の富士裾野の巻狩り（※1）の総奉行職任命と正月を祝う宴に大名が集まる工藤館。敵の工藤は一座のリーダー格である座頭が演じ、工藤家の紋である「庵木瓜」が金糸銀糸で刺繍された派手な衣裳をまとい、舞台上手の高座に居直り貫録をみせつける。曾我兄弟と工藤を引き合わせる朝比奈は猿のような滑稽なメイクを施した道化役。工藤に招かれた二人の傾城、十郎の恋人・大磯

の虎は一座のトップの女形が演じ、五郎の恋人・化粧坂の少将役は次代を担う若女形だ。ゲジゲジのような眉をつけた梶原景時と景高父子は工藤にこびへつらう敵役。

ずらりと居並ぶ面々の前に登場するのが曾我十郎、五郎の兄弟である。五郎は荒事で力強く、十郎は柔らかかみのある和事の演技。水色の直垂と長袴の衣裳にあしらった五郎の蝶模様と十郎の千鳥模様は曾我兄弟のトレードマークだ。工藤と対面した兄弟は素性を名乗る。五郎は工藤につかみかからんばかりの勢いで迫るも、工藤に諭され後日の再会を約束して別れる。



豊原国周『新年対面盃』（東京都立中央図書館特別文庫室所蔵）

古典音楽と民謡を巧みに取り入れた音楽劇であった。憧れだった宮廷芸能の典雅な様式美に飽き、本土の奔放な演劇の洗礼を浴びたとき、却って古典の様式的音楽劇に回帰したのである。始めは喜劇的小品だったが、明治末から大正期に多幕物の壮大な悲歌劇が生まれた。封建社会のしがらみと純愛との葛藤が美しく描かれ、古典組踊には悲劇的結末が無かったから、大きな衝撃を与えただろう。

代表的名作「泊阿嘉」(トゥマイ

アーカー)は、組踊「手水の縁」が下敷きである。出会って恋に落ち、忍び会って愛を深め、親の反対から悲劇へ向かう。「手水の縁」とイメージを重ね、同じ古典名曲を用いて深い感動にいざなった。悲歌劇は当時の日本にはなく、琉球の伝統と新時代の息吹が生んだ沖縄の結晶であった。古風ながらも情熱的で、その感動は今日も色褪せることはない。しかし、昭和に入って「史劇」などの、写実的な本格セリフ劇に座を奪われ

ていった。

今日、組踊や琉球舞踊は国の重要無形文化財に指定され、環境も整ってきた。だが、次の伝統である沖縄芝居は、方言の衰退から基礎地盤が衰弱している。歌劇は、豊かな音楽性こそが身上だから、多くの方に再評価いただきたいと願っている。

「世界」と「趣向」という創作マジック

叔父にあたる工藤祐経を亡父の仇として狙い、富士裾野の巻狩りの夜、ついに討ち果たしたという曾我兄弟の物語は中世以来多くの芸能の題材として取り上げられ、歌舞伎では数えきれないほどの曾我物が上演されてきた。

江戸時代、享保(1716～36)以降、明治を迎えるまで「対面」は、とくに江戸で毎年正月ごとに三座(中村座、市村座、森田座)が三座とも決まって新作して演じてきた。

正月に必ず上演されたのは、曾我兄弟が敵に出会う「めでたさ」がこの芝居にあるからだ。芝居を楽しむ江戸庶民の眼目は、曾我兄弟が敵工藤を討つ場面ではなく、敵に巡り合う対面の場にあったことでもわかる。

毎年新作することができたのは、歌舞伎が「世界」と「趣向」という創作マジックを持っていたからである。「世界」というのは物語の背景となる時代や事件、あるいは一定の人物群の類型のこと。曾我兄弟が敵の工藤に対面するという誰もが知っている曾我の「世界」を縦筋に、作者は新しい工夫「趣向」をこらし横筋として組み込む。

偽の工藤を対面させたり、工藤の

かわりに奥方や息子が登場したり、工藤を引き合わせる朝比奈のかわりにその妹の舞鶴となったり、対面の数だけ「趣向」が生み出され、様々なバリエーションは観客を飽きさせることはなかった。

現在上演される『寿曾我対面』は河竹黙阿弥がそれまで上演されてきた数えきれないほどあった対面劇を集成し、決定版として作ったものである。

復讐の気持ちを「めでたさ」に転換

鶴松と亀千代の兄弟が野遊びで酒盛りをする父の敵、あまおえを討つ組踊『二童敵討』。曾我十郎と五郎の兄弟が、祝宴中の工藤館に乗り込む歌舞伎『寿曾我対面』。どちらも実際にあった仇討ち事件を題材にしている。

大きな違いは、『二童敵討』が仇討ちを遂げるのに対し、『寿曾我対面』は兄弟が工藤と対面し仇討ちを迫るも後日の再会を約束して別れるというもの。

『二童敵討』は仇討ちに向かう兄弟と母との別れや、踊り子に身をやつた兄弟の舞、踊りながら敵を追い詰めての仇討ち成就までを丁寧に描く。

一方、『寿曾我対面』はタイトルが示すように兄弟が敵とはじめて対面するところに見せ場の中心があった。悪人であるはずの工藤は、血気にはやる若者をいさめるハラのある役で、潔く討たれる機会を与える器量のある正義の武士として描かれる。

幕切れ。鶴松と亀千代の二童が仇討ち成就のうれしさを歌三線にのせた美しい踊りでみせる組踊、上手高座の工藤が扇と刀で鶴が羽を開いた形を、舞台中央では真ん中に立った五郎の左右に十郎と朝比奈が長袴の裾を流して富士山の形をみせ、鶴と富士のめでたい図柄えのんで作る歌舞伎。こうした演出は、どちらも復讐の怨念めいた気持ちを「めでたさ」に転換して見せるという発想法である。芸能をはぐくんできた感性が共通していることを改めて教えてくれる。

※1 源頼朝が中心となって御家人たちを集め、富士の裾野付近で行った壮大な鹿狩り。征夷大將軍としての権威を誇示する意味もあった。

ダンス作品

『星の王子さま—サン=テグジュペリからの手紙』

この冬、美しく哀しく哲学的な「星の王子さま」の世界を題材にした大型ダンス作品を春秋座で上演します。振付・演出・出演の森山開次さんに作品への思い、また出演アーティストたちの魅力を伺いました。

＊ ＊ ＊

今回、副題を「サン=テグジュペリからの手紙」とし、ただストーリーを追うのではなく、物語の核の部分のサン=テグジュペリからの手紙としてお届けしたいと思っています。

企画書に『『星の王子さま』に散りばめられた美しい言葉、心に刺さる言葉を、身体表現で綴り直したい』と書いたのですが、言葉が大切なこの作品を身体表現に置き換えて届けたいと思っています。自分でもよく言ったものだと思うのですが（笑）、これは挑戦だと思っています。

ですが、本の中に散りばめられている、例えば「大切なものは目に見えない」などといった言葉をセリフではなくダンスにすることで感覚的に訴えることができ、ひょっとしたら言葉の核心を突いていけるのではないかなという強い思いがあります。

また今回、サン=テグジュペリの妻・コンスエロを登場させるのですが、物語のひとつ外枠を取り込むことで、より彼が感じていたことを表現できるのではないかなとも考えています。僕はサン=テグジュペリとはどういう人だったのか、パイロットだった彼が『星の王子さま』を書いた経緯に興味があるんです。



森山開次（振付・演出・出演）

空の上から地球を見ていた彼は僕達のように地上からこの世界を見ているのとは全く違う世界が見えていたと思うんですね。そうやって彼の視点から「鳥瞰」して物語を見ると、きっと『星の王子さま』に描かれている世界が見えてくるのではないかなと思っています。

※ロングバージョンは劇場 HP にて公開予定！

当劇場の感染症拡大防止対策について

マスクの着用	検温の実施	手洗い・手指消毒	ソーシャルディスタンス (密集の回避)	間隔をあけた 座席配置



感染症対策の詳細はHPよりご確認ください

安心して舞台をご覧いただくための劇場の対策

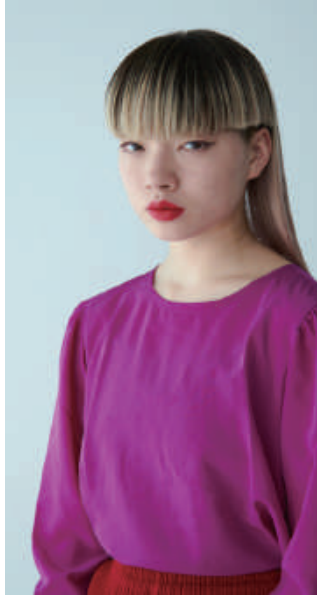
●ドア・扉の取手、座席などは公演毎に消毒を行います。 ●出演者、劇場スタッフの体調チェックをしています。

素晴らしい公演にするために —お客様へのお願い—

- 37.5℃以上の発熱、風邪の諸症状、味覚・嗅覚障害など体調不良がある場合には、ご来場をご遠慮ください。
- 分散入・退場にできるだけご協力ください。 ●座席やロビーにおいてのご歓談はご遠慮ください。

アオイヤマダ (ダンサー、モデル、表現者) / **王子**

彼女の魅力は枠にとられていないところ。住む場所を決めない、所属する場所を持たない、私は私の表現で勝負するという潔さがある。そして良い意味でわがままそうですね。王子は、自分はどうしたい!というのがあって、できないと泣きじゃくるような人であってほしい。そういう自由な感性を持っている方だと思います。



酒井はな (ダンサー) / **バラ**

日本を代表する誇るべきバレリーナだと思っています。若いバレリーナが沢山出てきている中で、存在感と表現力は群を抜いていると思います。なんて豊かな表現をするのだろうと見とれてしまいます。もう彼女の一ファンですね。すごく尊敬しています。彼女のクラシックの技術と溢れんばかりの感情表現で豊かな花を咲かせてくれると思っています。



©Tomohide Ikedya

小尻健太 (ダンサー・振付家) / **飛行士**



©momoko japan

身体の中のセンサーがとても敏感に働いていて、彼ならサン＝テグジュペリが考え、実行していたものが出せると思います。ご一緒するのは初めてですが、様々な事をじっくりと深く考えられる繊細な感性を持っている印象があり、技術も高く、身体にも恵まれた魅力的なダンサー。作品のカギとなる役割を担ってもらいます。

島地保武 (ダンサー・振付家)

彼が大好きなんです。存在が好きですね(笑)。だから何か一緒にやりたいと思ってしまう。誰よりも童心を持ったやんちゃな人で「ダンスが大好きなんだな」というのが伝わってくる。存在感がすごいから彼が居るだけで場が埋まってしまうし目の動き一つで飄々^{ひょうひょう}としていながらも大劇場をコントロールできる人ですね。すごいなあ〜と思う存在です。



©Ryu Endo

坂本美雨 (歌手)

体にスッと入ってくる透明感のある歌声が好きです。最初に歌声を聞いた時「何だこの声は!」と思いました。彼女には身体の言葉として擬音や言霊、響きを声で表現していただきたいと思います。ダンスは音楽と一緒に届けるものですから、彼女の発する音の重みや存在感で、さらにダンサーの身体を実感の持てるものにしてくれると信じています。



自然の通詞・鼓童

鼓童にはいつも叩きのめされる。
どう言ったらいいか。

叩きのめされるとしか言い様がない。

人間は本来、自分の体内にあるエネルギーで生きている生命体である。科学技術がどんなに進もうと、どんなに社会が進歩しようと我々が最後に振り所に出来るのは、己の体の中にある魂の熱量、肉体のエネルギー、それしかないと思っている。

世の中はどんどん便利便利と、安易な軽薄へと進んで行くが、便利とは人が自分のエネルギーの消費量をどの位減らすことができるかという、いわばサボることの指針である。文化さえもその風潮に流され、浅薄な涙や笑いに惑わされて真の感動を見失っていることが情けない。鼓童の演奏に心ゆずられるのは、そうした現代の汚れた風の中で、常に澄み切った原始の響きで魂の琴線をゆすぶってくれるからだ。

僕は最近日本各地の古木を求めて巡礼をしている。

木は無口である。何も語らない。

だがそう思うのは人間の浅はかさで、実は木たちには無限の言葉がある。人は不幸にして声と言語というものを修得し、それを唯一のコミュニケーションの手段であると錯覚した為に樹木のささやきを聴こうとしないが、人の一生の数倍、十数倍を生きてきた樹木には、それだけの分量の知性と感性の積み重ねが、溢れんばかりに蓄積されている筈だ。そこにけもの皮を張り、魂と肉体のバチで叩く時、木たちの言葉は無限の響きとなって、僕らの心にこれまで味わったことのない新鮮な感動をもたらしてくれるのだ。

勿論そこに前提としてあるものはバチを叩く者たちの鍛えぬかれた魂と肉体。僕の愛する鼓童の仕事は、太鼓を通しての、いわば神聖なる自然の通詞なのである。

11月の京都での演奏を、今から僕はわくわくと待っている。



撮影：松木直俊

倉本聰

脚本家

1935年生まれ。東京大学文学部美学科卒業後、ニッポン放送入社。63年、シナリオ作家として独立。77年北海道富良野市に移住。84年役者とライターを養成する「富良野塾」を創設。代表作に『前略、おふくろ様』『北の国から』『やすらぎの刻〜道』等。2006年より「C・C・C富良野自然塾」を主宰し環境保全に力を注ぐ。近年は、緻密な点描で森の樹を描き、心で聴いた樹の声を詩文にして掛け合わせた「点描画」の新しい表現に鋭意挑戦中。

CLIP

スペシャル動画 2本公開中！

桂米團治「おぺらくご」の特別動画を一挙公開！

今年6月に予定していました「桂米團治 春秋座特別公演」が、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により残念ながら中止となりました。そこで、楽しみにしておられた皆さまに「おぺらくご」の過去5作品「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「コシ・ファン・トゥッテ」「新版・フィガロの結婚」「魔笛」をダイジェスト版で配信しております。存分にお楽しみいただけただけの内容です。お家でご鑑賞いただき、来年「ドン・ジョヴァンニ」リニューアル版の上演をどうぞご期待ください！



5分で魅せます春秋座！ 紹介動画

本格的な歌舞伎とオペラが上演できる「春秋座」の魅力をご紹介します動画が完成しました。花道、廻り舞台、鳥屋、オーケストラピットまで駆け足でご紹介！ぜひご覧ください。

「演じる高校生」関連企画 おうちでワークショップ、舞台芸術アーカイブ『開演を待ちながら』も公開中。こちらも併せてご覧ください。劇場 HP <http://k-pac.org>

今だから思う!

人生に「if」は無いと言う。予期せぬ事態が起こってしまった後もまた「if」は無いと思う。だが、この度のコロナ禍において「もし三代目猿之助・現猿翁師匠がまだ舞台上に立てていたなら、3月から大きな痛手を受け続けている歌舞伎興行を、そして演劇を、どのように立て直そうと動くか?」を私は考えずにはいられない。

師匠が創ったスーパー歌舞伎は、今まで歌舞伎に敷居の高さを感じていたお客様に、スピード、スペクタクル、ストーリーの3Sを盛り込み、“歌舞伎は瑞々しいエネルギーの燃焼である”ことを強く印象づけ、今は四代目猿之助にスーパー歌舞伎Ⅱとして受け継がれている。

では、コロナ禍に見舞われた今、再び新しい歌舞伎を作らうか。否、今あるものを最大限に駆使して、低予算でより質の高い作品に昇華させることに力を尽くすと思う。衣裳のリメイク、舞台装置の簡素化、そして脚本を練り上げて上演時間を短くしながらも、よりワクワクする舞

台を作るだろう。創作の過程で誰もが「その手があったか!」と驚く奇想天外なアイデアが生まれる可能性も大いにある。終演後には、お客様が興奮覚めやらぬお顔で劇場を後にする姿が思い浮かぶ。

と、ここまで書いたのは21歳で師匠の弟子になった私の脳内の仮説。ズブの素人、しかも弟子の中で最も不器用な私の下手さ加減に長年辛抱しながら相手役として使い続けてくださった師匠のお考えと、私の仮説の答合わせをお願いした。その結果は「OK!」とのこと。師匠の薫陶を受けた身として、厳しい状況下でも歌舞伎の可能性を信じ、夢を見ずにはいられない。

尚、最後に宣伝をさせていただきます。本年10月17日に『猿翁アーカイブにみる三代目市川猿之助の世界』というフォーラムがございます。テーマは「感動! 師匠が芝居づくりにおいて、最も大切にしていた事でございます。皆様のご来場をお待ち申し上げます。



市川笑也
歌舞伎俳優

1959年生まれ。昭和55年3月に国立劇場第5期歌舞伎俳優研修を終了。4月に国立劇場『絵本合法衛』の中間で初舞台を踏む。昭和56年2月に師匠である現・市川猿翁（三代目市川猿之助）に入門し、二代目市川笑也を名乗る。平成2年2月に市川猿翁の部屋子となる。10年7月歌舞伎座公演『義経千本桜』鳥居前の静御前で名題昇進。

BOOK

公開シンポジウムの記録

「国性爺合戦と鄭成功—東アジアの視点からみたドラマトルギー—」

日本、中国、台湾で17世紀に活躍した実在のヒーロー・鄭成功は、近松門左衛門作『国性爺合戦』の主人公（和藤内）のモデルとして知られており、史実では「抗清復明」の旗印を揚げオランダの東インド会社の統治下にあった台湾に進攻し、占拠中のオランダ人を追放した武人といわれていますが、その評価は日本、中国、台湾、そして時代により異なります。当センターで

は2カ年にわたり台湾・中国での鄭成功像の受容や日本の近代演劇史における「国性爺」の表象について研究を行い、その成果発表として2019年12月に公開シンポジウムを開催。本誌はそれをまとめたもの。ご希望の方は舞台芸術研究センターへ電話またはメールにてお問合せください。

tel. 075-791-9437

k-pac@kua.kyoto-art.ac.jp



9 3日(木)、4日(金)、5日(土) 15:00
6日(日) 13:00

春秋座

立川志の輔 独演会

残席わずか

全席指定【発売中】

一般 4000円 友の会 3200円

学生&ユース席 2000円 (座席範囲指定)

※未就学児童の入場はご遠慮下さい。

託児サービス 6日(日)は託児サービスをご利用いただけます。

T-C OTS e+ ぴあ

10 3日(土) 11:00 / 16:00、4日(日) 11:00 春秋座

【開学30周年記念事業】

特集▶P.T-2

京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム

市川猿之助・藤間勘十郎 春秋座 花形舞踊公演

全席指定

【一般発売8月26日(木)、友の会先行発売8月25日(火) 10:00】

一般 10000円 友の会 9500円

学生&ユース席 4000円 (座席範囲指定)

※未就学児童の入場はご遠慮下さい。

託児サービス 4日(日)は託児サービスをご利用いただけます。

T-C OTS e+ ぴあ

11 29日(日) 14:00

春秋座

公益財団法人 国立劇場おきなわ運営財団 共催

特集▶P.2

琉球舞踊と組踊 春秋座特別公演

全席指定

【一般発売9月30日(木)、友の会先行発売9月29日(火) 10:00】

一般 4000円 友の会 3500円

学生&ユース席 2000円 ※未就学児童の入場はご遠慮下さい。

託児サービス

T-C OTS e+ ぴあ 生協

11 7日(土)、8日(日) 13:00

春秋座

創立40周年ツアー 第一弾

鼓童ワン・アース・ツアー2020

～鼓 TSUZUMI

佐渡ヶ島を拠点として40年。新たな領域へと向かうべく、鼓童の原点をテーマに躍動する身体が太鼓を響かせ、天地根源の力を呼び覚まします。リアルな体感を春秋座でご堪能ください。



撮影：岡本隆史

全席指定

【一般発売9月17日(木)、友の会先行発売9月15日(火) 10:00】

一般 6000円 友の会 5000円

学生&ユース 3000円 (100席限定)

※未就学児童の入場はご遠慮下さい。

託児サービス 8日(日)は託児サービスをご利用いただけます。

T-C OTS e+ ぴあ 生協

12 5日(土) 16:00、6日(日) 14:00

春秋座

ダンス作品

特集▶P.6

『星の王子さまーサン＝テグジュペリからの手紙』

全席指定

【一般発売10月28日(木)、友の会先行発売10月27日(火) 10:00】

一般 5000円 友の会 4500円

学生&ユース 2000円

こども (高校生以下) 1000円 ※4歳未満入場不可

託児サービス 6日(日)は託児サービスをご利用いただけます。

T-C OTS e+ ぴあ

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel.075-791-8240 営業：平日10:00-17:00・公演開催日

営業時間を変更する場合があります。詳しくは劇場HPでご確認ください。

京都芸術大学 舞台芸術研究センター

京都芸術劇場 春秋座・studio21

606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

tel.075-791-9207 fax.075-791-9438

E-mail. k-pac@kua.kyoto-art.ac.jp

http://www.k-pac.org

京都芸術劇場 検索



京都芸術劇場友の会 会員募集中! 詳しくは劇場HPへ

T-C 京都芸術劇場チケットセンター OTS 劇場オンラインチケットストア

e+ イープラスー <https://eplus.jp>

ぴあ チケットぴあー <https://t.pia.jp> tel.0570-02-9999

生協 京都、滋賀各大学生協ブレイガイド

KBS 京都事業部 tel.075-431-8300 (電話のみ 平日10-17時)

*記載のないものについての開場は開演 45 分前

*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金

*ユースは 25 歳以下対象 (一部公演を除く)

*学生・ユースは要身分証明書提示、チケットは京都芸術劇場チケットセンター、劇場オンラインチケットストア、大学生協のみ取扱い

託児サービス 料金：お子様 1 名に付き 1500 円 対象：生後 6 ヶ月以上 7 歳未満

予約・お問合せ：京都芸術大学舞台芸術研究センター

Tel:075-791-9207 (平日 10-17 時)

【延期のお知らせ】

劇場実験型共同研究プロジェクト公募研究Iは新型コロナウイルスの影響により2021年度に延期して公開する予定です。今後の詳細については、k-pac.org/kyoten/をご覧ください。

10月17日(土) 14:00

春秋座

開学30周年記念事業

猿翁アーカイブにみる 三代目市川猿之助の世界 第五回フォーラム

三代目市川猿之助(二代目猿翁)から京都芸術大学に寄贈された貴重な歌舞伎関係資料をもとに、三代目猿之助の軌跡をたどるフォーラムの5回目。今回は「感動」をテーマに、三代目猿之助と数々の創作をともにしたお二人をゲストにお招きします。

【ゲスト】

石川耕士(脚本家、演出家)、横内謙介(脚本家、演出家)

【企画】 田口章子(京都芸術大学教授)

【チケット申し込み方法】

入場無料(全席指定) 往復はがきにて申し込み ※先着順

2020年9月1日(火) 受付開始 定員に達し次第締め切ります。

【結果通知】 返信はがきを順次お送りいたします。

座席番号をご確認ください。

※当日、入場時に返信はがきをご提示いただきますので、必ずご持参ください。

※返信はがきをお持ちでない場合、入場をお断りする事がございます。

予めご了承ください。

〈往信表面〉

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都芸術大学舞台芸術研究センター

「猿翁アーカイブ・フォーラム」係宛

〈往信裏面〉

①代表者ご氏名(劇場友の会の方は会員番号、日本芸能史受講生の方は受講番号もご記入ください)

②ご住所(郵便番号含む) ③お電話番号(日中の連絡が可能なもの)

④同伴者有の場合: 同伴者ご氏名(1名様まで)

※ただしお席が離れる可能性有

〈返信表面〉 代表者のご住所、ご氏名をご記入ください。

〈返信裏面〉 白紙

2020年度 公開連続講座

「日本芸能史」～型と創造 [後期]

日本の伝統芸能・芸道はすべて型を持つ。型は、芸能・芸道の演技・演出の細部にまで行き渡る定められた手順である。型を持つのは、祭りを母胎として誕生したからである。型は、《カミ》つまり普遍的価値、宇宙の生命へ通じる通路である。部分を表現する型に《カミ》が宿る。そこには、部分にそれぞれの神がやどっているという日本人の多神教の信仰が生きている。型は創造の場である。型を守るとは、そこに降臨する新しい《カミ》即ち新しい価値と生命を生む覚悟を持って努力することである。「一期一会」〈千利休〉、「文台引き下ろせば反故」〈芭蕉〉などの先人のことばにはその必死の覚悟が表現されている。先人の努力の結晶が型である。型には人間の可能性がある。

総論 型の誕生

諏訪春雄

陶芸

沈壽官

常磐津

常磐津都毘藏・常磐津都史

琉球芸能

嘉数道彦

狂言

茂山忠三郎

日本語

諏訪春雄

京舞

井上八千代

能

片山九郎右衛門

日本舞踊

坂東温子

落語

桂吉坊

茶道

千宗左

木ノ下歌舞伎

木ノ下裕一

邦楽囃子

藤舎呂船

淡路人形浄瑠璃

淡路人形座

毎 回: 月曜日 15:10～16:30 (ロビー・客席開場 14:40)

後 期(全14回): 2020年9月28日～2021年1月18日

受講料: 1万5千円

会 場: 京都芸術劇場春秋座(京都芸術大学内)

【お問合せ・資料請求先】

京都芸術劇場チケットセンター tel.075-791-8240

アクセス

- JR・近鉄「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「京都河原町」駅から
京都市バス5系統「岩倉」行きに乗車、「上終町京都造形芸大前」下車
(「京都」駅から約50分、「三条」・「京都河原町」駅から約30分)
- 京都市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅(北大路バスターミナル)から
京都市バス204系統循環「高野・銀閣寺」行きに乗車、
「上終町京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電車「出町柳」駅から叡山電車に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩約10分
- タクシーご利用の場合、「京都」駅から約30分。地下鉄「今出川」駅から約15分
(「京都」～「今出川」は地下鉄で約10分)

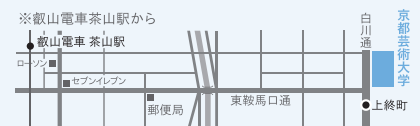
※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。天候や交通事情により変わりますのでご注意ください。

※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はご遠慮ください。

発行日—2020年9月1日

発行/編集—京都芸術大学 舞台芸術研究センター
デザイン…吉羽 一之 (Simple Hope Design Room)

京都芸術劇場ニュースレター vol.47





京
都
芸
術
劇
場
ス
レ
タ
ー

shunjuza
studio21
Newsletter

特集

琉球舞踊と組踊 春秋座特別公演

ミニ特集 ダンス作品

『星の王子さま』サンテグジュペリからの手紙』

市川猿之助・藤間勘十郎

春秋座 花形舞踊公演

2P
5P

6P
7P

T-2P
T-5P

vol.
47
2020.8



【開学30周年記念事業】

京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム

市川猿之助 藤間勘十郎 春秋座 花形舞踊公演

春秋座芸術監督・四代目市川猿之助と
宗家藤間流八世宗家・藤間勘十郎が
タッグを組む夢の企画です。かつて歴
代の猿之助と勘十郎の祖父・六世藤間
勘十郎もコンビを組み、様々な名作を
世に生み出してきました。現代の二人
が春秋座でどのような競演を魅せるか
楽しみな舞台です。また京都花街・宮
川町の三味線の名手、今藤美佐緒が舞
台に華を添えます。藤間勘十郎さん
今回の舞台にかける思いをお伺いしま
した。

2020年10月3日(土) 11:00、16:00(2回公演)
／4日(日) 11:00

会場：春秋座

出演：市川猿之助、藤間勘十郎、市川猿弥、中村鷹之資
演目：檜垣、玉兔、黒塚（～月の巻より）、悪太郎

●公演情報の詳細はスケジュール一覧（P.10）をご覧ください。

今回の公演を収録し、後日オンラインにて有料配信する予定です。
詳細は決まり次第、劇場HPにてご案内いたします。

—澤瀉屋のお家芸も並んだ素晴らしい演目ですね。『檜垣』『黒塚』『悪太郎』と、そこに『玉兔』を加えて全て「秋」に因んだ10月に相応しい情緒があります。

そういうことでやりましょうと四代目と話したんです。こういう機会は滅多にないですからね。

—『檜垣』の老女はお家芸なので四代目がされるのかと思っておりました。

四代目がずっと「老女をやって」と、すすめてくるんですよ（笑）。「僕が少将やるから」って（笑）。家には祖母がやった澤瀉屋とは違う形の『檜垣』が残っているんです。

—祖母という藤間紫さんですね。

そうです。今回、資料を探していたら猿翁さんが少将、祖母が老女、母が小町を踊っている、すごい写真が出てきました。祖母も好きで何回も踊った作品なので家にとっても大事な演目です。ですからいつかはやりたいと思っていたのですが、こんなに早くできるとは思いませんでした。

—お家の流儀でやるとなると、少し雰囲気が変わりますね。

老女なので女性がやると「女性」が強く出ますし、澤瀉屋はスペクタクルで歌舞伎味が強くなります。今回は私にとって初演なので、それらとは違う、私が今後、何回も踊れる『檜垣』を作りたいと父（梅若実玄祥）に相談して、お能の心得を聞いて、取り入れられそうなものは入れようと考えているんです。逆を言うと、お能の要素を取り入れることで素踊りにしやすくなるのかなと思います。お能は白拍子の部分が強いので、

どこかに入れられたらと考えています。それに大曲で長いですからね、今のお客様にも見やすいようにしようと思っっています。

—味わい深い老婆の動きは難しいものですね。

生半可な気持ちではできませんね。母親も70歳を過ぎてからやりましたし。それに素踊りでやるのはハードルが高いです。そういう意味でお能を取り入れることで糸口が見つかるかなと思って。今、方向性が少し見えてきたので、父も「この装束を貸してやろう」とかなんとか言っています。そういう意味では重い曲であるということを引きちんと受け止めて、澤瀉、お能、家の芸の良いところ取りをして自分なりのものを作りたいと思います。

—『檜垣』の後は中村鷹之資さんの『玉兔』で、ちょっと滑稽で愉快な踊りを楽しんでいただくと。

鷹之資くんは何度も踊っていますし、お父さんの中村富十郎さんもよくなさっていましたね。それから三代目もご自分の会でよく踊られていましたし、祖父も好きで昔からやっていた、みんなに縁のある演目ですね。—そして四代目による『黒塚』の二景。月下における老女の踊りで、びよんぴんと跳ねる振りは初演時の二代目がロシアに行った時に観たバレエからヒントを得たといわれていますね。

これはもう四代目も手に入れられている踊りですからね。逆に素でされるといのが珍しいぐらいで、どうやって素でされるのか楽しみです。

この『黒塚』も四代目に「祐慶をやりたいから老婆をやってよ」と言われ続け、断っているのですが（笑）。

僕がやらせていただくことがあるなら…と思って勉強したいと思います。

—最後は『悪太郎』ですね。四代目が悪太郎、宗家が修行者智蓮坊。二人が絡む踊りが多い曲ですね。

『悪太郎』が大好きなんです。曲も好きで譜面がなくともサラで弾けるぐらいです。とはいえ、まさか自分が出ることもあるなんて思ってもいなかったから、あまりの膨大なセリフや掛け合いの量に今さらながら、できるのだろうか（笑）。





今回、四代目と話して、昔、NHKで二代目と三代目市川段四郎さんがおやりになった形でやろうとなったんです。四代目に最初の智蓮坊の部分を「素踊りでしたらいいと思うんだ」と言われたんです。すごく良い振りで、良い曲なんですよ。

—そして最後、悪太郎がこらしめをうけて坊主になり、念仏を唱えながら智蓮坊と鐘の叩き合いをするんですね。このテンポ感が面白いです。

二代目と三代目段四郎さんは親子なので、やはり掛け合いが面白いんですよ。最後は3拍子になり洋楽風なんです。『黒塚』のようにゆっくりではなく、『ポンポン』つという掛け合いが面白いので、どこまでできるのか。今まで縁のない作品でしたけれど、演者として勉強できるので楽しみです。

—今回、初めて素踊りをご覧になる方もいらっしゃる

と思いますが、どういうところに注目したら面白いでしょうか。

素踊りは衣裳を着けず紋付き袴で踊るので、演者は衣裳を着なくても、お婆さんやお姫様のように観えなくてはいけません。出てきた時、お客様に着物を着たおじさんだと思われてはいけない(笑)。これは本当に重要なことなんですよ。

ですが、そこで大事なのはお客様も想像力が必要だということ。これは落語とかラジオドラマと同じなんです。ここは長屋だと言われれば長屋だと思って観ますよね。なんとなくシーンを想像していただいて最初はそう見えなくても、この人はお婆さんだなと思うと、だんだんそう見えてくるんですよ、不思議と。とはいえ観えるようにしていくのが演者の腕なのですが、でも、衣裳を着るとその形にしか観えないですよ。ところが素踊りだと例えおじさんが踊っていても、美人だと言われたら「こんな感じかなあ…」と自分好みに想像することができるとは違います。そういう意味では、お客様も自由なんです。

それから役者が出てきた瞬間、猿之助さんが踊っているとすぐに分かる。白塗りをしたら誰だか分かりませんからね。鼻眞の役者がすぐに分かる。ファン目線としても素踊りっていいなと思います。こういうのは現代的な考え方ではありませんが。

そして振りの面白さが伝えやすいですね。素踊りは色のついていないデッサン画みたいなもの。演者がちゃんと踊れば、役者が誰か分からなくても面白い踊りだとお伝えすることもできます。僕は振付師でもあるの

で、面白く観てもらえるように作らないといけないんですけど、そこが面白いですね。

そして役者が何を考えているか、基本が無いとか一目瞭然で分かっちゃうんです。奴、侍、お婆さん、お姫様、女中、そういう基本の形が体に入っているか試される場もあるんです。

—そういうのが観ている方にはたまらないですね。そうそう。いかに体得しているかですね。

—観ている方も想像力が刺激されるわけですね。そういった中で宗家にとって猿之助さんの踊りの魅力はどういうところにあると思われませんか。

その場に応じた見せ方、全体的な作品作りを場や相手によって変えていらっしゃる方ですね。一步引いた目線で舞台を見ていらっしゃる、そういうところも素晴らしいなと思います。計算してやるのとは違う、だけど行き当たりばったりではない。同じ『黒塚』でも相手が違うと全く違うんですね。そういう方はなかなかいらっしゃらないですね。そして基礎がちゃんとできていらっしゃるから、何をされても良い意味で歌舞伎っぽくなりますし、素踊りをして素敵ですね。

—お祖父さまの六世藤間勘十郎さんと、二代目、三代目猿之助さんとで素晴らしい作品がどんどんと生み出されてきました。それを今の時代に宗家と四代目がおやりになるのはたいへん意義があって素晴らしいことだと思います。またそれを春秋座で観られるというのは光栄ですね。10月の舞台を楽しみにしております。

※今回『悪太郎』は衣裳付けとなり、勘十郎さんは能装束にて出演します。

【芸術監督四代目市川猿之助より】



今回、四代目が踊られる演目について見どころをお聞かせください。

『檀垣』は清元節の中でも大曲であり、老女の恋を描いております。なかなか上演する機会もなく、隠れた名作といえるでしょう。今回は、藤間宗家にお勤めいただきます。

『黒塚』は、曾祖父の遺した作品群の代表となる人気演目です。春秋座ならではの企画として、京都の花街で三味線の名手として名高い、今藤美佐緒さんの演奏でお届けいたします。

『悪太郎』はお狂言をもとにつくられた、曾祖父の初期に属する創作舞踊です。初代猿翁のコミカルな面を特色とする振付、日本の曲には珍しいリズムの作曲など、見所満載の喜劇です。

四代目からご覧になって勘十郎さんの振付、踊りの魅

力はどうなところにありますか。

役者の癖や、好み、長所短所を知り尽くした上で振付をなさるスタイルは、そのまま、六代目の御宗家に重なります。お互いの先々代が築いた素晴らしい関係を受け継ぐべく、切磋琢磨、精進を重ねて参りたいと思います。

2016年(松竹大歌舞伎『獨道中五十三驛』)以来4年ぶりの春秋座公演となりますが、京都のファンの皆様にぜひ一言お願いします。

京都は藝処といわれております。しかし、厳しいようですが、それは、昔のイメージであり、残念ながら現実には往時と比べると下火になってしまった印象は否めません。この状況に追い討ちをかけるように、今回のコロナの災い。今は、舞踊会が無事に開催されることを祈るばかりです。



一、
檀垣
榎田治助 作
清元連中

関守の檀垣の老女
実は老女の亡霊
小野小町
四位の少将
藤間勘十郎
中村鷹之資
市川猿之助

二、
玉兔
清元連中

中村鷹之資

三、
黒塚
木村富子 作
四世柗屋佐吉 作曲
長唄囃子連中

老女岩手
三味線
市川猿之助
富川町
今藤美佐緒

四、
悪太郎
猿翁
十種の内
岡村柿紅 作
長唄囃子連中

悪太郎
修行者智蓮坊
太郎冠者
伯父安木松之丞
市川猿之助
藤間勘十郎
中村鷹之資
市川猿弥

長唄 稀音家祐介 社中
清元 清元 菊輔 社中
鳴物 田中傳次郎 社中
箏曲 佐藤 亜美
尺八 佐藤 将山